

2010年 学長年頭挨拶

新年おめでとうございます。良い年を迎えられたことと存じます。年の初めにあたりご挨拶をさせていただきます。

今年、琉球大学は開学60周年を迎えます。本学は開学以来、幾多の困難を乗り越え現在の7学部を有す総合大学に発展しています。先輩諸先生方の御努力に心から敬意を表したいと思います。同時に今後のさらなる発展を心から願っています。

60周年記念事業の一つとして記念誌の発刊がありますが、今日までの琉球大学の歴史をしっかりと検証し、総括を試み、未来への飛躍に資するものとなるように編集をお願いしてあります。琉球大学の開学当時は、教員数が少なく、その弱体をおぎなうため、本土の大学の先生方に集中講義を行っていただいたりしていました。現在はそのような事は大変少なくなっていますが、大学院博士課程の入学定員が少ないこともあり、琉球大学独自の学問をそだて後継者を育成するという点に関してはさらに整備充実を図る必要があります。特色ある研究を充実させるため、昨年は国際沖縄研究所や島嶼防災研究センターを設立し高いレベルの研究を展開し、特別教育研究経費を獲得するなど目覚ましい活躍を行っています。さらに熱帯生物圏研究センターと分子生命科学センターは合併し、大きな規模の全国共同利用施設として活動を始めました。農学部の発酵学研究も進展しつつあり、ともに本学の特色ある研究を行っています。両者はいずれも特別研究経費を得ています。

各学部・部局はそれぞれ本土の大学の branch ではなく独自の学問を発展させる必要があります。

教育学部は教員免許更新事業に大変多くの労力を割きましたが、教育 GP などを獲得し努力しています。さらに国立ラオス大学に附属小学校を寄贈し、国際的に活躍しています。

法文学部はアジア・太平洋の中心地にある大学としてレベルの高い研究を行い、大学院博士課程の第一期卒業生を送り出しました。なお、琉球大学からレベルの高い国際誌 *International journal for Okinawan study* の発刊が近日中に始まります。

観光産業科学部は大学院修士課程が設置され、未来へ向けて発展の基盤を作っています。

法科大学院は全国的に見直しが図られていますが、特色のある教育を行っています。

理学部等ではテニア・トラック事業の採択などをバネにし若手研究者が育っていくことと思われます。理工学大学院はレベルの高い研究を行い、すぐれた学生を育てています。

工学部はさきほど述べました防災研究を進め、**農学部**も発酵科学や防災研究で成果をあげています。さらに工学部は全学科で、農学部でも地域農業工学科が JABEE の認定を受けました。

医学部は大学院部局化を図り、今後の活躍が期待されています。

今年3月で第一期の中期目標期間が終了し、4月からは新しい中期目標期間に入ります。

大学は学生が自分で問題を見つけ、自分で考え、問題を解決することを教えます。私共も学生の頃に大学で学ぶのは考え方であり、問題にどのように取り組むかが大切で、単に知識を教えるのは大学ではないと言われてきましたが、琉球大学では次期中期目標にグローバルシチズンプログラムとして、自ら考え問題を解決する能力と高い学力を身につけた学生を育てることを考えています。

さらに、昨年もお話しましたように基礎科学をしっかり支援するとともに若手研究者や女性の支援を行い将来へ向けて努力したいと思います。大学の経営に関しましても、委員にアメリカの大学教授 ロバート ヒューイさんを加え、新しい視点で大学の活性化を図ります。

大学の使命である教育・研究・社会貢献等が高いレベルで行われるためには、教員と事務系の職員の協力が大切であることは申し上げるまでもありません。

お互いに協力し、今年が皆様にとりまして実り多い良い年でありますように願いつつ簡単ではございますが新年のご挨拶を述べさせていただきました。

平成22年 1月 4日
琉球大学長
岩 政 輝 男